

作  
竹中  
翔一  
朗

聞  
M O N K O U  
香

あらすじ

平安時代の貴族は自分だけの香りを創っていたらしい。薫物(たきもの)を部屋や衣裳にたき込めて、香りで「自分」を表現したんだって。当時は香り一つで誰かが分かったらしいぜ。

で、今、俺は恋をしている！

恋煩いにも初めて罹った！1週間寝込んだほどだ！

ああ、廊下ですれ違ったあの子の香りが忘れられない。

なんだか、心地良い香りだったんだ・・・

そう、手がかりは「香り」だけ。

俺は「香り」だけを頼りに彼女を探すことが止められなくなった・・・。

(213文字)

登場人物

正太郎 高3 (帰宅部)

ナツ吉 高3 (家庭科部)

レオ 高3 (陸上部)

タイヨ一高3 (生徒会会計)

西村 高1 (書道部)

現代

ある男子高校生の日常

舞台 上手から正太郎とナツ吉が歩いてくる

正 森の空気ってうまいよなあ！ (さわやかに)

ナ ・ ・ ・

正 なあ！ (同意を求める)

ナ そのテンションで来られても・・・

正 山の空気ってうまいよな！

ナ いや、だから、なんなん？いきなり。

正 うまいやん！

ナ え？だから意味わからんって。もしかして適当な相づち求めてる？

正 え？

ナ 「お食い初め」から始まってからこの方、空気を「うまい」と思ったことはない

正 煉獄さん風に言うなら「うまい！」ってなるとこかもしれないけど

ナ 空気に味はございません。

正 侘び寂びとか情緒とか、お前はどこに置いてきたんや？

ナ ワサビと紅茶？

正 もうええわ・・・えっと、なんかさ、今から恋の話をしようと思う。

ナ ええ！

正 なんでそう、あからさまにイヤそうな顔するん？

ナ え、聞きたないから

正 どうやら、俺は恋してしまったらしい

ナ 俺、これから餃子作るねんな。20人分、120個包むねん。

正 なんか、フワフワしてるって言うか、顔が熱いって言うか

ナ 焼き餃子と水餃子、両方作るんやったら倍いるかな？

正 あいつが視界に入るだけでぼーっとするねんな。

ナ ニンニクとニラはマシマシやな。

正 なあ、俺は一体どうしちゃったんやろう？

ナ しらんがな

正 冷たいな、なあ、なあくて、俺、告るべきか？遠くから眺めてるだけの方がいいか

ナ 彼女と餃子作るから

正 そんな未来のエピソードに興味は無い。俺の恋についてのアドバイスや

レオ 下手から走ってきて、通り過ぎる

ナ うわ、あいつが走って行ったあと、汗くさつ！

正 マジでな、彼女が通り過ぎると、ええ匂いがするねん。なんかこう、フワツと

ナ ほとぼしる汗、青春の「にほい」か？

正 いやいや、彼女の匂いに汗臭さはまったく無い。

ナ そう！あれはフローラルなフルールな感じ

ナ 花の匂いなの？

正 わかるか？ 最初、何も思わなかったんや。

ナ それがや、意識してまう瞬間があつてん。体育であの子がラジオ体操しててな

ナ シチエーションが若干キモいで。

正 ああ、恋はキモいもんや。

ナ 開き直った

正 あの子はめっちゃどんくさくて、もはやラジオ体操第なにか、わからんくらい

ナ 意味不明な動きをしとった

ナ 惚れる要素ないやん

正 目が離せんくなった

ナ 変態やん

正 政治経済の授業そつちのけで、俺は彼女のラジオ体操に釘付けになった

ナ は！知らん間に、お前に会話の主導権を握られてる！

正 俺は政治経済の渡鍋に質問された。

ナ 「退職時に有給休暇を消化できないときはうすればいいか」を。

ナ それは、お前の好きな子の話に関係あるん？

正 俺は授業を全く聞いてなかった。というか、彼女のラジオ体操に夢中で話が全く

入ってこなかったというのが正解だ。

ナ あくなるほど

正 しかし！俺はとっさに「有給休暇の消化は労働基準法によって保障されているため、

拒否された場合には労働基準監督署に相談できる。就業規則に買い取り可能と

書いてあれば有給休暇は退職時には買い取ってもらえる」という100点満点の解

答をしたんだ。

ナ 上げえな！お前マジばねえ！

正 答えきつてすぐ俺はこう言った「トイレに行ってもいいですか？」と。  
ナ なんて・・・

タイヨーゆっくり上手から登場。

タ その先は俺が話そう

ナ 誰？

タ 生徒会会計の吉田タイヨーです。

ナ 自分で会計を名乗る人に初めて会った・・・

タ 彼は女子の体育がおこなわれているグラウンド横のトイレに直行した。

ナ いや、教室4階やし、4階に男子トイレあるし

正 (タイヨーに) お前、なぜそれを！

タ グラウンド横の男子トイレは非常に臭いたため、運動部の男子でさえ使いたがらん

ナ なんで正太郎はそんなところへ・・・

正 決まっている！彼女の体操する姿をより近くで見るとためだ！

ナ 本格的に変態やないか

タ そう、正太郎はトイレの小窓から心置きなく女子の体育を見学できた

ナ あのトイレ、ガスマスクが必要なくらい臭いけど、よくそんなとこに長居できたな

タ そう、それが不思議でならん。私も時々使うが最長 99秒だ。

ナ ガロの鎧の召喚時間ぶっ込んでこられても。

正 あの子を間近で見たい！その思いが臭さを、そして時間を忘れさせた！

ナ なんか、かっこいい感じになってるけど、かなりキモいで。てか、

タ 会計の人、なんで正太郎の行動を知ってるん？

ナ 99秒、私は正太郎氏と同じ場所にいたのだ

タ うんこしてたのか・・・

タ (黙って頷く)

タ 3人の前をレオが走り抜けていく

タ ナ 汗くさっ！

正 そうか？・・・あ、続けさせてくれ。

タ 俺は時間を忘れて、とかいうかいつの間にか気を失っていたようだ。

ナ おそらく彼女の魅力にやられちゃったんだ・・・

タ やられちゃったんだって、おまえ、それあまりの臭さに気絶したんじゃないの？

ナ その先は俺が話そう。

タ お前、なんでその先を知ってたんだよ。

タ 生徒会役員は生徒の動向を常に把握しているものだ

正 とりあえず、彼女のラインを教えてください。

タ よかろう

ナ　なんで知ってんねん！

タ　生徒会役員は・・・

ナ　ラインはわからんやろ？！

正　この際だ、会計、俺は一体どうすればいいんだ？

ナ　正太郎もなんや！「会長」みたいに会計ってよぶなよ！

正　ナツ吉では役に立たないことがよくわかった。

ナ　微妙に傷ついた！

正　会計、あの子のラインを

タ　情報をタダでか？

ナ　金取んのかよ！？

タ　当たり前や、女子のラインIDやぞ。無料なわけ無いやろ。(ナツ吉に向かって)

正　(正太郎に向かって)ただし、お前の言い値でええぞ。

タ　せ、千円でどうや・・・？

ナ　(笑)まいど。これからもご鼻屑に。

タ　おまえ、ほんまに生徒会か？わつるい顔しとんで！

タ　私は生徒会である前に会計や。金の匂いがあるところに我、在り。

ナ　むちゃくちゃやな。

正　は、早く、ラインIDを・・・(財布から震える手で千円を出す)

ナ　禁断症状みたいになってるやん！

タ　【笑って】ちよつと待ってや、今メモで渡すからな(メモ帳に書き始める)

ナ　完全に何かアカン商品の受け渡し現場みたいやん

正　というかさ、正太郎の惚れた？子って何者なん？全く情報なさ過ぎてわからんし

ナ　素性は1年ということしか・・・

正　いや、ラインID渡されても、誰かわからんかったら意味なくない？

ナ　どうやって告白するつもりやったん？！

正　いっぺんに色々言うなや、混乱するやんけ。

ナ　こっちのセリフや！

正　できたぞ。(メモ書きを渡す)

タ　こ、これは！？

正　なんや？(正太郎のもらったメモをのぞき込む)QRコード手書きしとったん？

ナ　すまん、恩に着る

正　変態が増えた！

タ　会計はPayPayすら手書きで書くことが可能や

ナ　いや、さすがに嘘やろ。

正　すまん、もう一つ頼まれては貰えへんか・・・彼女は一体誰なんだ！？

ナ　名前ぐらい自分で調べてから動けよ！

タ　おっと、名前は個人情報なんで、悪しからずな

ナ　お前、結構重大な情報漏洩してたけど！

正 5千円でどうや（震える手で財布から紙幣を出す1000円5枚）。

タ いや、さすがに・・・

ナ おお、さすがにそこはコンプラ重視？

正 ぐう・・・ギザ10もつける（タイヨ一五千十円を奪うように取り）

タ こっちへ・・・（ナツ吉から離れた場所で正太郎に耳打ちする）

ナ プラス十円で転んだよ！

正 よし！よし！

ナ よかった、のか？

タ （タイヨ一、去り際に思い出したように）

困ったことがあったら、生徒会会計吉田タイヨ一をいつでも頼ってくれたまえ  
せやけど情報料はもらいまっせ（笑って、下手に退場）

ナ さっさと帰れ！

正太郎ラインで何かを送っている

ナ え、もしかしてライン送ってんの？ちよつとは作戦練った方がええんちゃうん？

正 あ・・・

ナ どうした！さっそく返事が！？

正 ブロックされた・・・

ナ そ、それはそうやろ。

正 知らんやつからいきなりライン来たら詐欺かなんかやと思うし。

正 せやからLINEスタンプから入ったんやけど・・・

ナ 何送ってん？

正 『今何してるん？』ってやつ。

ナ こわっ！それ初回一発目に知らない人から送られてきたらブロックするやろ。

正 そ、そうやったんか。不覚・・・

ナ と、とりあえず、気持ち切り替えようや。まだ、告ったとかちやうし。

正 「今何してるん？はあと」やったんや。

ナ うん、キモい。ブロック案件。

正 6010円がっ

ナ うん、色んな意味で痛いなあ。

正 まだや、まだ俺は終わってへん！

ナ 終わってると思うけどな

正 相手は俺がLINE送ったってことを知らんねんから、まだチャンスはある！

ナ あくなるほど。たしかに

正 クラスと名前はわかった。これから下足箱へ行くぞ

ナ いや、俺帰ってもええ？

正 なんてうえ！

ナ だから彼女と餃子を

正 俺の恋路と「彼女と餃子」、どっちが大事やねん！？

ナ そんなもん、一択やろ。「彼女と餃子」にきまつてるやんけ。

ナ ちなみに、彼女がなくても餃子一択や！

正 ふざけんな！

ナ ちょいちょい理不尽にキレるけど、100%俺が正しいぞ

正 俺に彼女ができるかもしれへんわけやんか。友達やろ。協力せーや。

ナ あのな、どこの誰かもわからん、俺は情報ゼロなわけやんか。協力しようが無い

正 高い情報料を払って手に入れた個人情報やぞ！そう易々とお前に教えるわけには

ナ うん。だから協力できひんやん。

正 友達甲斐の無いやつやな

ナ 俺の彼女、1年やから、名前教えてくれたら協力できるかもやで。

正 うーん。

ナ じゃ。(帰ろうとする)

正 待て待て

ナ 誰よ。

正 花の香りがする子や。

ナ フローラルって？あれか、柔軟剤的なやつか？シャンプーの匂いか？

正 なんか、こう、鼻の奥に残る匂いっていうか・・・

ナ わかんねえよ。俺は普通なんだよ。お前変態、俺普通。匂いの記憶とか無いです

正 すまん。(ちよつとへこんだ様子)

ナ ・・・ごめんやって。ちよつと俺も言い過ぎた

正 いや、お前は正しい。

ナ ・・・彼女がそばを通り過ぎたときに「ああ、ええ匂いやなあ」が始まりやった

何日もその匂いを探してしまった。気がついたら、校内で匂いを嗅ぎ回るキモ男

出現って、インスタに上がってる始末や。もし、彼女と接触できてもキモがられ

るのがオチや。すまん。俺、もう諦めるわ。

ナ 馬鹿野郎くくくく！お前俺がなんで家庭科部に入ったか知ってるのか！

モチたかったからだよ！

料理男子って言われたかったからだよ！

「もこみち」みたいにオリーブオイルとかドバドバかけて楽しみたかったんだよ！

入部してすぐに家庭科部の同級生女子3人に連続で告白してフラれるという偉業

3年になるまで同じ部員の女子は誰も口をきいてくれなかった。毎回毎回残飯処

理。体重は20キロ増えた。でも俺は諦めなかった。その結果どうなった？

正 彼女と餃子・・・



ナ そうだ！彼女と餃子だ！おれとあいつはクサイ仲だ！誰にも文句は言わせねえ  
顧問ですらな！

正 ナツ吉・・・おれ、がんばるよ！

(ナツ吉・正太郎抱き合う)

レ オ走ってくるが、抱き合っている2人を見て立ち止まり、ひとこと  
キモッ

レ オ走り去る

ナ 何だよ！この汗くさ男が！バーカバーカ！

正

ナ (我に返ったように) どうしてん。急に黙りこくって。

正 まあ、経済的打撃は大きかったけど、未来への投資やと思えば安いもんや

正 いや、さっきから陸上部のやつが走り去るたんびに「汗臭い、汗臭い」って言う  
てるけど、そんなか？

ナ え？めっちゃクサイぞ。ほら、あれあるやん。汗のにおいと、部屋干し洗濯物の

なんか、カビっぽい匂いの混ざったようなw

正 うそ？おれ、全く匂わんねんけど。

ナ ないない。それこそ嘘やん。かなりの匂いやで。

正 え・・・

ナ あれやろ。フローラルな香りの女子はわかんねやろ？

正 それが・・・

ナ どうしてん？

正 いや、なんでもない。

ナ まあ、ええわ。

ナ とにかく、1年女子なわけでしょ？(携帯で調べてる)

正 6時間目に体育をグラウンドでやってたんは・・・1年6組7組やわ。

正 よし、絞り込めたから彼女に聞いてみたるわ。(ナツ吉下手に捌ける)

正 恋の話をしよと思う。

正 いつからだろうか？

正 女子のそばに行くと「いい匂い」がする瞬間があった

正 俺は別に匂いフェチとかじゃない、と思う

正 下足付近はやっぱり足の匂いがあるから嫌いだ。長居したくない

正 あんなどころにラブレターなんて入れるやつはバカだと思ふ、あとチョコも

正 ああ、別に匂いの話がしたいわけじゃ無い。

正 問題は俺は彼女の匂いを忘れてしまったのだろうか？ということだ。

髪の毛の匂い（なんだろうか）？衣服（なのか）？  
もっと近くで（確かめたいと思う）。  
あの人を好きになった、きっかけだから。

「詩」ですか？

き、聞いてたのか？

ポエマー？

ち、ちがっ

いいじゃないですか。「匂い」なんて言うからキモい感じするんです

「香り」っていう日本語があります。

たしかに・・・

僕ね、書道部で今、和歌を短冊に書くんですよ。それがね、墨の香りと相まって  
すごく落ち着くというか・・・

和歌を

はい。和歌を。

例えば？

こんなのはどうですか？

ちりぬとも かをだにのこせ 梅の花 こひしき時の おもひでにせむ

すごいな。

意味わかります？

馬鹿にすんな。勉強はできんねん。古文も得意や。

「たとえ散ってしまおうとも、せめて香りだけでものこしてくれ。

恋しい時の思い出ししようと思うので。」 やろ？

今の先輩にびったりやと思って。

失礼やな。フラれる前提みたいやないか。

さっきまで、彼女と話してました。話してるときにLINEが来て。

本人は

（食い気味に）本人はなんて！？

困惑してました。僕はインスタで先輩の挙動不審な行動を見ましたから。

あの子を狙ってんのは間違いなく先輩やと。

そ、そうなんや

まあ正体不明のアカウントからいきなりLINE来た！てビビってましたよ。

ちなみに本人には先輩のこと言うてませんよ。

だって、確信なかったし。先輩やし。怖い人かもせえへんし。

書道部なん？その子も。

そうです。墨の匂いが落ち着くって。墨の匂いが好きな人、結構いますよ。

正　　そ、そうなんや。墨の匂いって覚えてへんな。  
西　　そんなもんですよ。一度書道教室観に来はったらどうですか。

墨のええ匂いしますよ

正　　墨の・・・彼女の匂いも墨の匂いなんか？（呟く）

どないかしました？

西　　いや、何でも無い。

あれやったら今から書道教室行きますか？彼女もまだ書いてると思いますよ。

正　　遠慮しとくわ。いや・・・。会いたくないとか

勇気が無いのとはちよつとちがうな・・・。

説明が難しいねん。なんて言うか・・・いや、無いか。

俺が送ったLINEスタンプみたんやろ？

『今、何してる？はあと』友達に言われたわ。キモすぎるって。

ええ、まあ。でもしゃあないですやん。送つてもーてんから。

ちよつと、コーヒー飲みます？僕、飲みたいんで買ってきますけど。

正　　すまん、俺さつきちよつとお金使ってしまったって財産ゼロで。

西　　ああ、いいつすよ。コーヒー買ってきます。（西村捌ける）

袴姿か。見たいな。（上手からナツ吉戻ってくる）

ナ　　おーい、わかったぞー！例のフローラル女子。ミスフローラ？

おい、ヤメロ！さすがに恥ずかしい！

インスタのストーリーで不審者扱いされている君は学校認定の変態やぞ。

今更何言うねん。

正　　おまえらまとめて訴えるぞ。

あら怖い。ミスフローラの所属クラブがわかった！

ほう。

ナ　　しかし、貴重な情報だ。タダではやれん。

お前、マジでクズやな。

正　　500円で手を打とう

書道部やろ。

ナ　　？なんでそれを！？

さつき1年の書道部男子が。

知り合い？

正　　いや、まったく

初対面のやつのお話を鵜呑みにすんのか？！

正　　俺の送ったLINEを彼女と共に見たらしい。

ナ それはキツイ!

正 彼女の匂いの正体も判明した。

ナ フローラル?

正 墨汁

ナ 墨汁?

正 せや。

ナ んなことあるかい!

正 気持ち的には俺も同じ

ナ 確かめに行ったんか?

正 確かめるって?

ナ 同じ学校の中におんねんぞ。相手は書道教室や。確かめたらいいやんけ。

正 なんて言えばいい?まさか、匂いを嗅がせてくれたって?

ナ なんてやねん、近づいて鼻呼吸よ。口呼吸じゃなくて

正 え?

ナ もうええやんけ。どうせ、高3あと数ヶ月で学校ともおさらばじゃ。

正 最後に大輪の花咲かせようぜ。

正 アホの花やな。よし!(行こうとする)

ナ がんばれ!

正 ちよ〜待て!お前はついてきてくれへんのか?

ナ 彼女が行ったらアカンでって。

正 「わたしのナツ吉が正太郎先輩と変態グループ」扱いされんのはイヤやって

(立ち止まり)・・・(一度にらんで泣きながら下手に捌ける)

(上手からタイヨウ登場)

タ 動きましたね・・・

ナ せやなあ。

タ ぶっちゃけ、今年に入ってマスクせんでよくなったやん。

ナ 男子も女子も一目惚れ事案増えた思わん?

正 そうかも。意識してなかったけど。

タ たしかにマスク美人とかいう言葉もあつたしなあ。

タ 去年までは素顔の写真が飛ぶように売れたんよ。あの子の素顔が見たいって

ナ ぼろ儲けしてたんちゃうんか?

タ そうでもないで

ナ 女子には素顔撮らせてもらう代わりに7割バック。俺の取り分は3割。

タ え?1枚いくらで売ってたん?10000円くらいか?

ナ 3割バックやと三百円しか入らんのか?女子は何もせんでも儲けれるやん

タ その商売も4月以降はさっぱりや。あ、帰ってきた。

ナ 早かったな。で、どうやった?

正 ないねん(手には着物と陸上部の練習着を持っている)

何が？

おっばい？

正 ナ アホか！（呆然とした様子で）匂いが、ない。（衣類を匂う仕草）  
落ち着けよ。どういうことやねん。

正 ナ 書道教室行ったんでしょ？

正 ナ ああ！行った。でも、入っても墨の匂いも、何も、香らん、匂わんかってん  
ビックリして部屋飛び出して、そしたら陸上部のやつに出会って、

おまえら臭い臭いって言うてたから、無理矢理脱がして、

正 ナ おいおい、落ち着けよ！

正 ナ 冷静になろ、冷静に。

正 ナ 薄々感じてた。彼女に恋して熱出して寝込んだあとから、彼女の匂いが  
せんようになつた。彼女の匂いだけじゃ無かった。やばい、嘘や！って思って  
学校中嗅いでまわつた。世界中から全く匂いが無くなつた。

正 ナ 香らんようになつた。

正 ナ だから、だから・・・俺は！

（暗転）

了

「聞香」

竹中 翔一朗

令和5年10月29日

最終稿令和5年11月28日